J-35

隅田川テラス利用者の水辺環境評価に関する研究
－ その２ 利用者の居住地から見るテラスの効果 －
Research on waterside environment evaluation of Sumida River Terrace users
― Part 2 Effect of the terrace seen from the user's place of residence ―

○長谷川演恒[1]，横山将弥[2]，畔柳昭雄[3]
Nobutsune Hasegawa[1], *Masaya Yokoyama[2], Akio Kuroyanagi[3]

Abstract: In this paper, following "Previous Paper No. 1", we will grasp the range of use as a relationship with Sumida River Terrace users. Therefore, the purpose is to grasp the place of residence and reach, and to grasp the effect of each revetment. As a result, it was found that the Taito Ward side revetment is easier to use than the Sumida Ward side revetment. In addition, in order to increase the use of terraces, it is thought that the main measures are to develop various uses and raise awareness of the waterside. In the future, we will analyze the "conditions for easy staying and walking on the waterside" from the purpose of use of the Sumida River and the amount of awareness of the waterside environment, and at the same time, we will consider the maintenance policy of the Sumida River.

１．はじめに

本稿では，「前稿その１」に続き，隅田川テラス利用者を対象に，隅田川との関係性としての利用範囲を捉える。そのため，居住地，到達範囲を把握し，各護岸整備の効果を捉えることを目的とする．

２．調査概要

調査概要を Table1 に示す.本調査は,隅田川の水辺利用者を対象に水辺環境に関するアンケート調査を実施した.アンケートは隅田川の桜橋から築地までのエリアで，護岸形態を考慮しつつ 12 エリアで配布した．次いで，アンケート配布地別の被験者の居住地と郡市・特別区の割合を把握した.

３．調査結果

アンケート配布地別に被験者の居住地位置図と郡市・特別区の割合を求めた結果を Figure1 に示す.

３－１. 利用者の居住地

Figure1 を見ると,「前稿その１」で述べた通り，全エリアにおいて墨田区，台東区，江東区，中央区の利用者が多いのみならず，隅田川から見て比較的近郊に居住していることが見受けられる.

３－２. 地区別にみる護岸の利用実態

護岸別に被験者の居住地に着目すると,「1.クルージング」や「7.桜橋」では，台東区居住の利用者より墨田区居住の利用者が多い．一方で,「3.両国橋左岸」や「8.アサヒビール前」では墨田区の利用者が多く，墨田区側護岸より台東区側護岸が滞在や歩行を促していることが推察される.

３－３．身近な水辺としての利用要因

「前稿その１」で述べた通り，隅田川テラス利用者は居住地の身近な水辺に対して長時間の滞在をしており，滞在を促す物理的要因が存在していることが窺える．そこで，アンケート配布地の護岸に隣接する地区別利用者が 6 割以上の配布地に着目すると,「2.蔵前橋右岸（台東区 60%）」,「4.親水広場付近(中央区 63%)」「9.新川地区(中央区 67%)」「10.パリ広場(中央区 80%)」,「11.越中島地区(江東区 67%)」,「12.築地地区(中央区 87%)」であった．各々整備状況を見ると花壇や休憩施設，水に触れられる整備, 公園としての整備が充実しており，テラスの多様な目的を作ることが身近な水辺としての認識を高めていることが窺える.

Table1. Survey outline

調査対象地	隅田川テラス
調査方法	隅田川テラス利用者へのアンケート調査（無作為抽出法）
調査期間	2021年8月28日・29日/9月4日・5日　9:00～18:30
回収数	スーパー堤防=180通　直立堤防=180通

４．おわりに

本稿では，隅田川テラス利用者の居住地からの到達範囲を捉えた．この結果，墨田区側護岸より台東区側護岸の利用しやすさが窺えた．また，テラスの利用を高めるためには，多様な用途の整備や水辺の認識を高める工夫が主要と思われる．今後は，隅田川の利用目的や水辺環境の意識量から,「水辺の滞在や歩行のしやすい条件」を分析していくと同時に，隅田川の整備方針を検討するつもりである.

５．参考文献

[1] 畔柳昭雄・渡辺秀俊：「都市と水辺の人間行動－都市生態学的視点による親水行動論－」，共立出版,pp.248,1999

1：日大理工・院（前）・海建　２：日大理工・学部・海建　3：日大理工・教員・海建

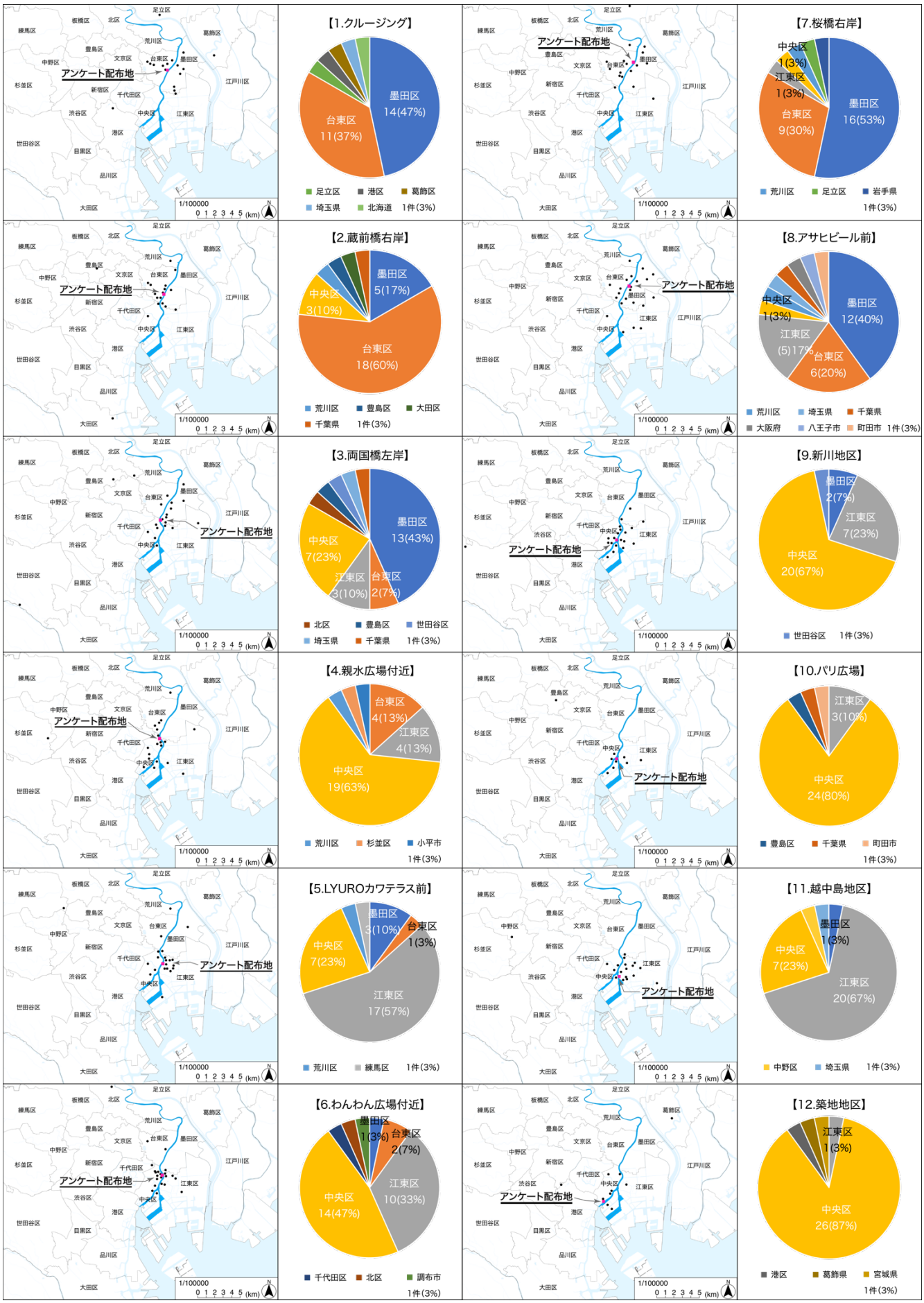

Figure1. Subject residence and county / city / special ward ratio by questionnaire distribution location.